

会 議 録

会 議 の 名 称	令和 7 年度彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森検討協議 会第 1 回会議
開 催 日	令和 7 年 1 0 月 2 日（木）
開 催 時 間	午前 9 時 5 5 分開会 ・ 午前 1 1 時 4 5 分閉会
開 催 場 所	高岩浄水場 会議室
会 長 の 氏 名	久保木 孝夫
出 席 者 の 氏 名・出席者数	久保木 孝夫、柴山 利幸、情野 雄太郎、 浅井 嘉一、福田 航、工藤 己之助、佐井 純一郎、 小林 聡一 8 人
欠 席 者 の 氏 名・欠席者数	山下 幸一、長谷川 敏夫、戸田 恵美子、馬場 章 4 人
説明員の氏名	環境課 主任 松原 直美 環境課 主任 折原 浩幸
事務局職員の 職・氏名	環境課 課長 伊藤 真州 環境課 課長補佐 吉川 隆志 環境課 主査 今泉 和也 環境課 主任 折原 浩幸 環境課 主任 松原 直美
その他会議出 席者の職・氏名	
会 議 次 第	1 開 会 2 委 嘱 3 あいさつ 4 議 題 (1) 令和 6 年度事業報告について (2) 令和 7 年度事業計画について (3) ふるさとの森にかかる消耗品購入について 5 そ の 他 6 閉 会

配 布 資 料	会 議 次 第
	資 料 1 彦 兵 衛 下 小 笠 原 遺 跡 ふ る さ と の 森 検 討 協 議 会 名 簿
	資 料 2 令 和 6 年 度 白 岡 緑 と 土 の 会 事 業 報 告 書
	資 料 3 令 和 7 年 度 白 岡 緑 と 土 の 会 事 業 計 画
	資 料 4 令 和 6 年 度 彦 兵 衛 下 小 笠 原 遺 跡 ふ る さ と の 森 にか かる 消 耗 品 等 購 入 一 覧

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
今 泉 主 査	1 開 会 会議を開会
伊 藤 課 長	2 委 嘱 書 の 交 付 伊藤課長から委員に対して委嘱書の交付を行う。 ※委嘱書交付者が欠席だったため、紹介のみとした。
伊 藤 課 長 久 保 木 会 長	3 あいさつ 伊藤課長からあいさつ 久保木会長からあいさつ
今 泉 主 査	4 議 題 議事進行については彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森検討協議会設置要綱第6条第1項に基づき、会長に依頼する。
久 保 木 会 長	これより議長の職を務める。 議題(1)令和6年度事業報告について及び議題(2)令和7年度事業計画について、それぞれ関連があるため、一括して議題とする。
松 原 主 任 久 保 木 会 長	事務局から説明を求める。 資料2及び資料3に基づき説明 事務局からの説明が終了した。
A 委 員	何か質問はあるか。 昨年度の活動でマルシェへの参加などが増えていてとてもいいことだと思う。 森に入って何かをするだけでなく、外部への発信をこういった形で行うことも一つの手法だと思う。ぜひ続けてほしい。

B 委員	昨年度、ひこべえの森の竹を材料としてランタンを作ったが、とてもいいものができたと思う。
C 委員	このような取組を含めて、企画していただきたい。 「森の整備」と聞くと、木を切ることや草刈りをするという考えになり、きついことをやらなくてはいけないとなってしまう、あまりいいイメージではない。 そういったことを前面に出すのではなく、楽しいことをアピールしていきたい。
B 委員	12月13日の土曜日に、白岡ニュータウン自治会でマルシェを行う予定である。
C 委員	若者にアプローチしていく手段として、森に来て欲しい。 我々大人が整備をして、子どもたちにきてもらうというのが理想である。
久保木会長	子どもと接することが多いD委員、何か意見はあるか。
D 委員	自然観察会をやると、子どもと一緒に親が来る。 その際に説明を行うと新たな発見につながり、もっと知りたいという意見が聞かれる。 今はインターネットで簡単に調べることができるが、森に来ることによってその価値、知識を提供することができる。それが子どもたちの力になっていく。
C 委員	花の名前を知ると、それで満足してしまう人もいる。それだけで終わらせないことが重要で、学べる場所として整備していきたい。
D 委員	戦後、ひこべえの森は赤松の林だった。 それがどのようにしてあのような豊かな森に変化してきたのか、そういったことを受け継いで語り継げたらいいなと思う。
A 委員	子どもたち向けというと冬のつどいが該当すると思

A 委員	うが、冬のつどいは集まった中学生が森の掃除をするということがメインとなっている。 それだけでなく、もう少し学ぶ機会の提供を増やしていただけたら。 また、中学生よりも下、小学生や親子で参加するイベントも企画していただけるとありがたい。
E 委員	冬のつどいについてお知らせさせていただくと、今年は１２月１３日の土曜日に開催させていただく。 昨年度はボランティアのかたを含めると９９名の参加となっていて、中学生約５０名、ＰＴＡなどの学校関係者が約１０名、一般参加者が４名、白岡緑と土の会から１２名、まちぐるみん白岡から約１０名、その他事務局職員となっている。 メインの目的としては、ひこべえの森の保全活動の一環として行っており、落ち葉や枝拾い、ごみ拾いとなるが、地元のかたとの交流や自然環境への理解、体験ボランティアとしての活動といったことも兼ねている。
B 委員	新白岡のマルシェと重なってしまった。時間帯は何時頃か。
E 委員	午前９時頃からお昼頃となっている。
B 委員	マルシェの開催時間等について検討をしてみる。
C 委員	冬のつどいは約１８年前から行われており、最初は６名しか参加者がいなかった。それがだんだんと増えてここまできたが、整備のことを考えるとまだまだ人手は足りない。
F 委員	ＳＮＳの活用などでもっとＰＲしていきたい。 小学校の教員としてお伝えすると、森で学べることは多いと思う。しかし、森に入る機会がなかなかない。 子どもたちが森に入ると、一緒に親も入る。そうや

F 委員	って森に来る人が増えていければ。
C 委員	そのきっかけ作りとして、森の資源を使ったワークショップなどの開催が効果的だと思う。
	昔は森にたくさんツタ類があって、それを使ってクリスマスリース作りを行った。
	先ほどの竹を使ったランタン作りも一つである。
A 委員	子どもたちが入ってもケガをしない、安全な森として整備していきたい。
	去年の冬のつどい中、上から木の枝が落ちてきて頭に当たった。
	もちろん大人がきちんと説明をしているが、楽しいイベントの中にもそういった危険があるということを知ってもらうことも一つだと思う。
	それに加えて、先ほどのワークショップを行うことが効果的である。
	今年の春に私が主催するイベントでひこべえの森に遠足で来た。
	その際に参加者に木や葉っぱなどを拾ってきてもらうネイチャーゲームをやったのだが、「これは何だろう」などと親子で話し合ったりして盛り上がった。
	イベントとなると準備が大変だと思うが、あまり大掛かりに考えず、できることを増やしていけば森を知ってもらうことにつながる。
B 委員	私は友人と一緒に、C 委員が主催した森のお茶会に参加した。
	初めての体験だったが、雰囲気も良く、また企画していただけたら参加したい。
C 委員	お茶というのは自然や文化というものとよく合うものである。
	できれば今後もやっていきたいと思う。

C 委員	それと、A 委員の意見に対してだが、昔は森で、川で、あぜ道でいろいろな経験を通して、これはやってはいけない、危ないことなんだというようなことを学んできた。森に入れば枝が落ちてくるということももちろん教えなくてはいけないが、自身の経験で覚えることもたくさんある。
D 委員	環境教育の話として、私がこの森に携わり始めたころ、どのような目標をもってこの森を整備していったらいいのかということを話したことがあった。 林業体験やキャンプ場として利用するのはどうかというような意見もあった。 しかし、この森は実験的なことを行うには狭すぎる。どのようにしていけばこの森の価値が出てくるのかということを話し合った。 結果、この森は自然を知ることを目的とした環境教育の場として使っていくことがいいのではないかという結論に至り、当時のメンバーで意思決定を行った。 今後あまりいじっていくのではなく、なるべく自然な形を残していきながら、資源の活用や交流の場所など、できることをやっていけるように考慮してもらえればと思う。
C 委員	市役所が火災に遭い、B 委員と一緒に「ハチドリ基金」という募金活動を行った。 約 40 億円の修繕費が必要と聞いたが、募金活動で集まったお金は 80 万円であった。 でも、ひとりひとり、できることをやればいいと思う。 森の活動も同じで、枝が落ちていたらそれをどける。これだけでもいい。 そして、それぞれの人の目的に合った森の利用をし

C 委員	てもらえればいいと思う。
B 委員	森での子どもたちの勉強会は続いているのか？
D 委員	時期によって違いはあるが、20人くらいの子どもと森に入っている。
B 委員	子どもたちが元気に走る姿、遊ぶ姿、とてもいいと思う。これからも続けてほしい。
久保木会長	環境課からは何かあるか。
今泉主査	環境課では自然環境を残さなくてはいけない。しかし近隣には何軒か住宅があり、田畑もあるので、迷惑にならないように草刈りやうっそうとしている部分の木を切るなどして、入りやすい森となるように管理をしていきたいと考えている。
C 委員	入りやすいというのは大切かもしれない。
G 委員	近所に住んでいるが、薄暗いから怖いなという声を聴くことがある。
D 委員	森ではないが、すぐ隣に開けた土地があり、そこからの雑草が道路まで伸びてきている。 手を付けることができないが、そういったところも解消してきれいな森にしていくことも必要だと思う。 もし白岡緑と土の会が草刈りをしていいということであれば協力する。
今泉主査	道路通行上支障が出るようであれば、道路課と環境課で協力して土地所有者にきちんと管理をしてもらうように伝えるか、通行ができないような状況というところまで来てしまっていれば市で緊急対応するかということも含めて対応していく。 人が近付きにくいという状況にならないようにしていく努力をする。
D 委員	行政が行ってくれるとスムーズにいくと思うので、ぜひお願いしたい。

D 委員	また、人手が足りないということであれば、協力できるところは一緒にやっていきたい。
C 委員	森の整備に活用できる市の予算はどれくらいあるのか。
今泉主査	3万円である。 これは消耗品として購入するものの予算となっている。 ここで、併せて議題(3)のふるさとの森にかかる消耗品購入についても説明させていただく。 資料の上段が昨年度購入したもの、下段が倉庫内や環境課で管理しているものである。 購入する物品については、事務局が冬のつどいに参加して、参加人数に対して熊手などが足りないように思えたので、久保木会長に相談の上、購入して数を増やしている。
G 委員	ひこべえの森は駐車場の台数が少ない。 拡張するのは難しいと思う。 あけぼの集会所に看板を設置しておくので、何台か停められるようにしておく。
C 委員	駐車場は確かに少ない。 駐車場を作るときに白岡緑と土の会がこれくらいでいいと言ってしまった。 今では反省している。
B 委員	今度の冬のつどいで、何か目玉となる内容はあるか。
E 委員	例年と同じような内容にはなるが、森の整備、炊き出し等を行う予定である。 中学生の参加はもちろん、おやじの会などの参加もあるため、幅広い年代の交流の場となる。
C 委員	ひこべえの森を訪れた人に話しかけてみると、キャンプがしたいという意見が出た。

C 委員	しかしこの森は火気厳禁である。 また、この前森に行ったところ、カラオケをやっている人がいた。 テントを張っている人もいて、その人に話を聞くと、日本中をバイクで旅行しており、たまたまいい場所があったのでここで寝泊まりしたとのこと。 悪いことをしているのではないので、それぞれの使い方をしてもらえればいいと思う。
久保木会長 伊藤課長	環境課長からは何かあるか。 環境課では皆さんの活動の土台作りが我々の役割だと思っている。 森に入りやすく、自然と足を運べるような環境をこれからも末永く続いていくような仕組み作りをやっていききたい。 どの程度整備をしていけばいいのかということについては事務局だけでは判断がつかない部分もあるので、皆さんと相談をさせていただきながら、市民の方が親しみを持てるような環境を作っていけるようにしていきたい。
久保木会長 松原主任	女性としての立場で松原主任は何か意見はあるか。 子どもが小さいときには一緒に森に行き散歩をしたことがあったが、虫などになかなか触れることができなかった。 でも植物などに興味を持つこともできるし、自然を学ぶ入口としてはちょうどいい広さだと思う。
D 委員	子どもたちと一緒に森に入りわかってきたことがあるのだが、今は没頭する体験というものがないのだなと感じる。 森に入ると遊び始めるまで時間はかかるが、しばらくすると自分を見つめ直して何をやろうかというふう

D 委員	に動き出す。 これからこういったことを発信していけたらと思う。
B 委員	森で子どもたちが遊んでいるところを見て、子どもたちの順応性は高いなと感じた。 危ないなと思っていても、うまく草むらを飛び越えたり走り回ったりしていた。 とてもいい経験だと思う。
D 委員	今遊んでいる園児に加えて、広く一般募集をして森に行くことがあるが、初めてくる子たちは怪我をすることが多い。それはこのような場所で遊んだことがないからである。
C 委員	それが回数を重ねるうちに怪我をしにくくなる。 仕事でも得意・不得意がある。こういった経験もそうである。 私は森の木を使ったりしてワークショップ的なことをやっている。それが得意なことなので活動している。 ツリークライミングが得意なD委員はそれを中心にやってもらうなど、それぞれの立場で活動してもらえれば。
D 委員	森の整備について何かのストーリーが必要だと思う。 半分プライベートではあるが、SNSでの情報発信をしている。 そういったところで見てもらった人から意見をもらい、反映させていけたら。 いろいろな里山などを見ているが、ひこべえの森は他の里山と比べるとちょっと変わっていて、都内の方へ行くと、ここからこっちはうちの管理する範囲、あなたたちはあっちというように人手の充実もあるが喧

D 委員	嘩が起きるくらいにきっちりと別れている。 それが茨城とかその辺りに行くと、道があって、キャンプ場があってと何でもできる広さなのに人手が足りなくて管理が行き届いていないという状況である。 ひこべえの森はそれらのバランスがちょうどよくて、何もしていなくても人が入れているいろいろな楽しみ方ができる。それも人工物で遊ぶのではなく、そのままの形でできる。このような森はないと思う。 トラストの森などはちゃんとした通路があり、入れるところと入れないところがきちんと管理され、ある意味公園的である。
H 委員	トラスト地は範囲が広いということもあり、手が行き届かないところもあるため、通路とそうでないところがはっきりとしているのだと思う。 ひこべえの森は全体として活用できるというところがいいところである。 A 委員から枝が落ちてきたという発言があったので、安全面での手入れをやっていければ、近所のかたが散歩道として訪れる人が増え、そこから担い手不足の解消につながる可能性もある。
C 委員	森の管理方法についてはそれぞれの意見が出てくると思う。 森を訪れる人にアンケートを取って、それを整備の方針に反映できればいいのだが。
H 委員	トラスト地でもやっていることは大体同じになるが、保全活動やワークショップ、それと企業とコラボしたイベントを行っている。 県では県広報誌で参加者を募る支援を行っている。 森を訪れる人へのアンケートという発言があったが、冬のつどいで実施することはできないか。

E 委員	事業に関するアンケートは行っているが、森の在り方などについて伺うというところには疑問がある。 参加した中学生に森の感想を聞き、今後どうなってほしいかということを知ることには必要なことだと思う。
伊藤課長	森に遊びに来た機会、活動した機会をとらえて意見を伺っていただければと思う。 意見収集の方法として、例えばだが、ホームページなどで意見を聞く、イベント時に直接聞くなどして機会を設けていきたいと思う。
C 委員	非常に重要なことだと思う。 先日、親子で森を訪れてくれた際、子どもに土のにおいをかいでもらった。いい匂いだと言っていた。 こういった機会が減っている。 環境教育の場所となるように整備をしていきたい。
D 委員	C 委員と昔話したのは、美しい森を作りたいということ。 感じ方には個人差があるが、私はひこべえの森が一番美しいと思っている。あの大きさを、今の状況まできれいになっている。 この機会でこのような話をしていくことは、整備方針などを見直すことができる。 話すことで目標などを見失わないようにすることも大切である。
G 委員	たまにひこべえの森の中に入るが、馬に乗って散歩をしている人を見る。とても絵になる。 タカやカラス、キジもいていい環境である。
B 委員	新型コロナウイルスが流行する前、森でコンサートを行ったが、冬のつどいで実施することはできないか。また復活できればと願っている。

A 委員	個人でイベントをやっている人がいるが、それを行政で情報発信することはできるか。
今泉主査	市が後援となって実施しているものであれば、ホームページ等で周知することは可能だと思う。
B 委員	新型コロナウイルスも収束はしてきているので、いろいろなイベントが開催されればいいなと願っている。
C 委員	昔は第2、4土曜日に活動をしており、20名くらいいたが、今はそこまでの人数での活動はできていない。
	若い人を集めるアイディアが欲しい。
	先日、ひこべえの森で倒木があったので、事務局に処理をお願いしたいのだが、可能か。
今泉主査	事務局で把握していなかったもので、まずは状況を把握する。
	チェーンソーを持っているので、それに対応できるか確認する。
C 委員	ひこべえの森の西側、竹が繁茂しているところを整備していきたいと思っている。
	そこも散策路となるようにしていきたい。
D 委員	子どもたちと行くときに、一緒に熊手を持って落ち葉掃きを試してみる。
C 委員	冬のつどいを春や秋などにも実施したいと思うがいかがか。
E 委員	そのような意見があったということを持ち帰る。
C 委員	道具の管理についてだが、メンテナンスをどうするかというのも問題である。
D 委員	最初に道具を揃えた際には30万円くらいの予算があったが、それ以降は3万円くらいとなっている。
C 委員	環境課では倉庫にある道具を使っているのか。

C 委員 今泉主査	また、メンテナンスは定期的に行っているのか。 事務局でメンテナンスは行っていない。 基本的には環境課が所有する道具を使っているが、草刈りなどに行ける職員が多くいて、足りないときは倉庫の中のものを使うこともある。
D 委員	メンテナンスのことを考えると、エンジン式を使うのではなく、バッテリー式の方がいい。 倉庫の中にガソリンを入れておくのも危険だし、エンジン式は次に使うときに動かないというようなこともある。
今泉主査	道具の購入については、D 委員の意見も踏まえて予算要求をしていきたい。 また、今年度に購入するものについては、久保木会長に相談しながら必要なものを購入していくようにする。 時間の都合もあり、ここで会議を終了とさせていただきます。
今泉主査	5 その他 最後に何か意見や質問はあるか。
C 委員	この協議会は毎年 1 回限りか。
今泉主査	少ない金額だが、委員の皆さんに費用弁償をお支払いしており、そちらの予算を増額することが難しいため、毎年 1 回限りとさせていただいている。
C 委員	この会議に若い世代、特に中高生を参加させることはできないか。 私が思うに、経済のことを学ぶことよりも大切なことだと思う。
今泉主査	私が他の部署で中高生を委員にした協議会に携わったことがあるのだが、授業や部活動などでなかなか参

今泉主査	加が難しいといった状況があった。 また、保護者が送り迎えをしていたのだが、その負担があり、４年ほどで終わってしまったことがある。 そのような事情から、中高生を委員として入れるのは難しい現状である。 現在では市長への手紙や環境課へメールで問合せることもできるので、意見が寄せられればそちらを参考としていく。 他に何か意見や質問はあるか。
委員一同	なし。
今泉主査	6 閉 会 会議を閉じる。 以 上